

# 倉橋惣三先生の思い出

—古いノートから—

赤間峰子

倉橋惣三先生がなくなられてもう二十年、そして及川ふみ先生もなくな

れて今年は七回忌を迎えられた。新緑

の美しい多磨墓地（倉橋先生）と鶴見

総持寺（及川先生）へと、先輩、後輩

の方々と一緒におまいりをして、今さ

らのようにいろいろと思いつくことが

多かった。思い立って、学生時代のノ

ートは……と探してみたところ、学生

時代ではないのだが、昭和二十二年四

月二十六日、と日付があるので、多分

終戦後の新しい教育に切りかわるため

の講習会だったのだろう。ノートが見付かった。

読み返してみても、こんなにいいお話

をうかがっていたのか、と今さらのよ

うに自分のふがいなさに驚いた次第で

ある。

まず、「新しい教育」（今の方々にと

ってはもはや新しいとはいえないだろ

うが）として、「教育の目的には、幼稚

園教育としての目的と、人間教育の目

的という二つがあり、いかなる教育に

おいても後者の目的がなければならぬ。殊に幼児教育においてはこの二者

の関係が大切で、この点が従来かけて

いた点である」として幼児教育といえ

ども、教育の大体系の中に含まれて、

同一の根源に立脚したところの目的を

もっている。そしてそれぞれの教育目

的もまた、互いに連絡がなければなら

ないといわれている。

先生がこの話をなさってから二十八

年たって、教育は先生のお考えと

反対の方向に向かっているような気が

すると思うのは私だけではないと思

う。形だけのエスカレーター式教育を

望むだけで内容はバラバラではないの

だろうか。

そして、新憲法にのっとって新しく

定められた教育基本法を説かれ、保育

の根本もここにあり、保育者が決して忘れてはいけないことであるといわれた。

第一条の教育の目的の項では特に“教育は人格の完成をめざし、”という点を強調されている。人格完成の大事業の第一歩が教育であるといわれた。人格の完成は遠い目的には違いないが、現在の段階からめざすのが、真の“めざす”である。教育においては殊に“現在”を重んぜよ、そして幼児においては、人格完成の可能性をめざすのである。そしてその人格とは、人間性あつての人格である。幼児は人格をもたなくても実に人間性に富んでいゝる。だから、幼児教育においては、“人格完成をめざすをもって目的とする”というよりもむしろ、“人間の

開発”といった方がびったりするものである。

これを読んで、きっとその当時は先生の名調子に酔って、一生懸命にノートはとつたものの、あまり理解してはいなかったのではないかと深く反省する。その証拠には、まるで初めてうかがつたような（選集などで読むのとは別に）気持ちでこれを読んでいる私なのだから……。

統いて“平和的国家を形成し”“真理と正義を愛し”“個人の価値を重んじ”と説き進まれ、これはわれわれ保育者が、個人の価値を重んずる教育をすると同時に、幼児自身においてもそうなるように教育しなければならぬ、と大変むずかしいことをいわれている。そして“勤労の責任を重んじ”

はもちろんのこと、“自主的精神に満ちたる”、これこそ幼児教育において忘れてはならないことである。と特に強調されている。

以上の教育基本法第一条を元として幼児保育に携わって行かねばならぬ。すなわち“幼児教育に深さをもたせねばいけない、ただ幼児と遊ぶあどけない保育でもなく、幼児保育を偉大なものと、まつり上げるものでもないのである”と。今さらのように私は先生をなつかしいと思い、今からでも、この貧しいノートからでも、まずもう一度先生のお声をうかがうつもりで勉強し直したいと、つくづく思ったのである。